

南北朝文化 (14c中ごろ)

北山文化 (14c後半~15c初め)

東山文化 (15c中ごろ~15c後半)

戦国期の文化 (16c初め)

能・茶道・花道・連歌・その他芸能・文芸

(39.) : 豊作祈願の祭礼
(40.) : 寺社に奉納する芸

<41. >・<42. >
父子が (43.) を完成
『44. 』 : 43の理論書
by <45. >

>
セットで演じられるようになったのが
(46.)!

(47.) という茶会が盛んに!
→ 茶を飲み比べて産地を当てて
賭け物を争う (48.)
が流行

(49.) の流行
豪華な会所を作り、茶会を
楽しむ!
・ 生け花の流行

<50. > が 49 に 禅 の
精神を取り入れて、茶室で心の
静けさを求める (51.) を創出
床の間を飾る立花様式が定まり
<53. > が 活躍

<52. > が
受け継ぐ

<54. > が 連歌 [上の句と下の句を別の人が交互に詠む]
の地位を上げる (← 和歌と対等になる)

<57. > が
(58.) を確立
『59. 』
・ 東常縁、57に (60.)

<61. > はより
庶民的な (62.) を創出
『63. 』

『55. 』 : 連歌集の最初
『56. 』 : 連歌の規則書

・ 華やかなコスプレをして集団で踊る (64.) が、念仏踊りと結びついて、現在につながる
(65.) へ発展した。

・ 民間で歌われた (66.) の歌集である『67. 』が成立
・ (68.) の流行
絵が入った短編物語。
『物くさ太郎』『一寸法師』

新 仏 教 の 発 展 と 神 道 思 想

南北朝文化 (14c中ごろ) | 北山文化 (14c後半~15c初め) | 東山文化 (15c中ごろ~後半) | 戦国期の文化 (16c初め)

臨
濟
宗

①室町幕府の保護

②尊氏、禅僧のく1.

を頼り、(2.)を造営

◎(3.):五山を最高とし、十刹をそれにつぐ官寺とする

京都五山: (5.)・(6.)・(7.)・(8.)・(9.)の5寺

鎌倉五山: (10.)・(11.)・(12.)・(13.)・(14.)の5寺

・義満、南宋の^{かんじ}官寺の制に

> ならって(3.

を整備、(4.)を五山の上

属さない禅宗諸派である

(15.)は民間布教へ

(16.)の

<17. >が有名

一
向
宗
浄
土
真
宗

日
蓮
宗

神道

<26. >は
神本仏迹説(神>仏)
に基づき、神道を中心に
儒教・仏教を統合しようと
する(27.)を
完成した!

<18. >(応仁の乱頃)

・越前の(19.)道場を拠点

→北陸・東海・畿内に広まる

・農民の惣村の結合を利用して

(20.)を組織し、易しい文章の

(21.)で教えを説いた

→23に敗北し、山科本願寺破却

→(24.)(大阪)

が本拠地に

<22. >『立正治国論』

6代將軍義教の頃、京都の商工
業者[町衆]へ広まり、他宗と論戦

(23.)(1532~36)

京都町衆の信者が一向一揆に
対抗して山科本願寺を焼打ち

(25.)(1532)

延暦寺と衝突し、焼打ちを
受けて、一時京都を追われた

建	築	と	庭	園
南北朝文化 (14c中ごろ)	北山文化 (14c後半~15c前半)		東	山文化 (15c中ごろ~15c後半)
① 尊氏・直義 ^{たけなほ} 、国ごとに寺・塔を建立 → (28.)・(29.) と命名 (1345年)	① (33.)寺 (34.) by <35. > 1・2層が寢殿造風 3層が禅宗様		① (36.)寺 (37.) by <38. > 1層が (39.) 2層が 禅宗様 38の書斎	(39.) 寢殿造を母体とし、押板 ^{おいた} ・ 棚 ^{つげ} ・付書院 ^{ついでん} を持ち、襖障子 ^{ふすまざり} 明障子 ^{めいざり} を用い、畳を全面に敷きつめている。
② (30.)庭園 (1339年) (31.)庭園 (1345年頃) by <32. > (2つとも)			② (40.) : 39の典型例 砂と石だけで造る	
			③ (41.)の様式による庭園が造られた! (代表例) (42.)・大徳寺大仙院庭園 ^{たいとくじだいせんいんていえん}	

• その他重要キーワード

- ① 室町幕府は禅僧管理を委ねた役職として (43.)を置き、その初代に<44. >を任命した (1379年)
- ② (45.) : 京都五山・鎌倉五山を中心に出版された書籍
- ③ (46.) : 将軍に芸能・技能をもて仕えた者
(有名な人) 能の観阿弥・世阿弥、河原者と呼ばれた作庭の<47. >、水墨画・連歌の能阿弥など
- ④ 猿楽の専門集団が各地で生まれ、大和国では興福寺・春日神社に奉仕する大和四座が活動!
→ 結崎^{ゆさき}を本拠とした (48.)・外山の (49.)・坂戸の (50.)・円満寺の (51.)
↑ 観阿弥・世阿弥父子は、脚本である (52.)を著し、義満の保護を受け、発展